

『小貝川災害復旧四半世紀を経て』講演会のご案内

——災害～復旧～水辺活用——

昭和 61 年 8 月の台風 10 号による大洪水から四半世紀を経過し、その間に全国各地において大きな洪水や地震、そして記憶に新しい「3.11 の東日本大震災」等、改めて災害の脅威を実感しています。今回はより身近な小貝川の災害を振り返り、私たちの日々の備えを再確認すると共に、河川の利活用や日常的な水辺空間の在り方などについて、当時建設省下館工事事務所長として現地で指揮を執った福田昌史氏（現高知工科大学客員教授）及び東京大学名誉教授の虫明功臣氏を迎え、地域の実務者及び流域市民と共に考え、課題や新たな方向を共有します。

日 時 平成 25 年 2 月 14 日(木)午後 1 時～4 時 50 分

会 場 茨城県取手市 県南総合防災センター



昭和 61 年 8 月 5 日 台風 10 号による決壊 旧明野町赤浜地先
河川空間の活用



決壊前の懸命な水防活動（赤浜地区）



小貝川フラワーカナル春の花まつりコンサート風景



カヤック教室（ボニースクール E ポート 自転車など常設）

「小貝川災害復旧四半世紀を経て」写真展の開催

開催期間 平成 25 年 2 月 6 日(水)～2 月 14 日(木)

午前 8 時 30 分～午後 5 時まで(火曜日閉館)

場 所 同会場展示ホール

主 催 NPO 小貝川プロジェクト 21

共 催 取手市 藤代まちづくり協議会

国土交通省関東地方整備局下館河川事務所
利根川流域交流会

後 援 茨城県 NPO 法人 未来につなごう鬼怒川・小貝川の会
NPO 法人 川での福祉・医療・教育研究所

協 力 (財)ハーモニーセンター NPO 法人 川に学ぶ体験協議会

問合せ 飯泉光一 TEL 0297-83-2281

——入場無料——

【写真提供 上左右:国土交通省下館河川事務所 左下 2 枚:NPO 小貝川プロジェクト 21】

『小貝川災害復旧四半世紀を経て』講演会プログラム

日 時 平成 25 年 2 月 14 日(木)午後 1 時～4 時 50 分

会 場 茨城県取手市 県南総合防災センター

プ ロ グ ラ ム

午後 1:00 開 会 ～ あいさつ (主催者・来賓者)

午後 1:30 基 調 講 演 「小貝川災害復旧四半世紀を経て」

講師 高知工科大学客員教授 工学博士 福田昌史(元建設省下館工事事務所長)

午後 3:15 シンポジウム 「川の利活用と地域づくり」

《話題提供 東京大学名誉教授 工学博士 虫明功臣》

コーディネーター NP0 法人川での福祉・医療・教育研究所理事長 福成孝三

パネラー NP0 法人未来につなごう鬼怒川・小貝川の会理事長 古澤諭

パネラー (財)ハーモニーセンター理事長 大 野 重 男

パネラー 取 手 市 長 藤 井 信 吾

パネラー 国土交通省下館河川事務所長 長 野 拓 朗

アドバイザー 高知工科大学客員教授 工学博士 福 田 昌 史

アドバイザー 東京大学名誉教授 工学博士 虫 明 功 臣

午後 4:50 閉会

基 調 講 演

講師 高知工科大学客員教授 工学博士 福田昌史

(元建設省下館工事事務所長)

災害復旧の責任者として現場を指揮し、景観にも配慮した緩勾配による堤防補強、新たな工法の開発、集落移転による母子島遊水地等きわめて短期間に円滑な事業を着実に推進し、同時に流域市民への配慮も欠かさず、復旧後の河川の在り方など市民と共有し、共感と呼んだ。小貝川フラワーカナルもその一つ。現地リーダーの貴重な体験や教訓を振り返り、人と川の間関係をハード・ソフトの両面から示唆する。

パネルディスカッション

度重なる災害に見舞われながらも私たちにとって川はやすらぎと活力の空間である。川の持つ親水性・景観性を市民の日常生活やまちづくりに活かす知恵は地域振興や市民の活力向上に有効である。それらの河川空間を拠点に活動する市民や団体の取り組み等を事例に、人々の暮らしと新たな水辺環境の健全な構築を目指し、議論を深める。



県南総合防災センター

〒300-1511 茨城県取手市桐木 103 番地
TEL (0297) 83-2776